

2023 年度 特定非営利活動に係る事業報告書

特定非営利活動法人

ちば市民活動・市民事業サポートクラブ

I. 事業の成果

1. 組織の運営

実績	成果・課題
<p>会員は、運営会員 21 (23) 名、賛同会員 102 (100) 名 () は昨年度の会員数 寄付件数は 14 件</p>	<p>会員数は、未納者も加えての数。 新規の加入者数と、2 年会費の納入がなく 会員から外した数がほぼ同数である。</p>
<p>定例理事会をオンライン併用で、年 5 回開催した。</p>	<p>オンライン併用開催としたことで、出席率は上がった。</p>
<p>2015 年に作成した就業規則を現状に沿った内容で見直し、改正した。</p>	<p>社会保険労務士である石井理事に職員の働き方を伝えた上で作成いただくとともに、きちんと運用できるように理事や職員に対し、内容についてレクチャーいただいた。</p>
<ul style="list-style-type: none"> ・事務局は 17 名（内四街道市みんなで地域づくりセンター6 名、2024 年 4 月入職 1 名）おおなみこなみボランティアスタッフ 5 名で運営 ・退職者 4 名、新規採用 1 名 	<p>四街道は若い世代で担当することになり、徐々に事業の見直しをすすめる事ができた。 NPO クラブに新卒者が入職、新しい力が入ることにより影響がでている。</p>

2. 相談事業・NPO の支援事業

①相談事業

実績	成果・課題
<p>事務所での相談は 24 件、四街道市みんなで地域づくりセンターでの相談は 99 件、年間で 123 件の相談件数</p>	<p>法人の立ち上げや団体運営についての相談が多い。 電話、メール等での軽微な相談の記録が残せていない。</p>

②講座事業

実績	成果・課題
<p>○千葉県市民活動団体マネジメント事業 千葉県事業として受託実施、4 回の講座を開催。団体の基盤強化、運営力向上につなげる内容で、外部講師を依頼し専門性を持った内容で開催。受講者数延べ 181 名。講座満足度で満足との回答は 92.4%。 9/7 NPO の労務講座 講師：石井敏則さん 10/5 NPO の危機管理講座 講師：石井敏則さん 11/7 NPO の日常会計処理講座 講師：加藤達郎さん 11/21 NPO の年度末会計処理と事業報告書作成講座 講師：早坂毅さん</p>	<p>いずれの講座もオンラインまたはオンライン併用の形で開催、講座後にオンデマンド配信を実施。遠方の団体や当日の受講が難しい人への配慮となり、受講者数は昨年度（延べ 112 名）よりも多くなり、満足度も高くなっている。一方で受講者の理解度の確認や受講者間の交流等が難しいといった課題もある。</p>
<p>○ちばし地域づくり大学校事業 令和 5 年度地域人材育成事業として受託、実施。ステップアップコース 15 名（定員 30 名）、入門コース 34 名（定員 20 名）、基礎コース 2 クラス 28 名（定</p>	<p>入門コースは定員を大幅に上回る受講者数を確保できたが、基礎・ステップアップコースは定員に満たない状況での実施となっ</p>

<p>員 40 名)で実施した。勝部麗子さん(豊中市社協)を講師として、「地域を耕す」をテーマにキックオフ講座を開催。9月～2月の間に11～14回の講座を連続開催し、地域づくりの人材育成につなげた。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・入門コースと基礎コースでは、地域の活動団体でのボランティア体験プログラムも組み込み、座学で学ぶ⇒実際の活動に参加する⇒今後の活動についてのイメージづくりをする、といったカリキュラム設定をしている。 ・ステップアップコースでは、「円滑な団体運営のためのファシリテーション」「資金調達」「広報」「SNSの活用」をテーマに外部講師を依頼し専門性を持った内容で開催するとともに、団体の次のステップにつなげるプランづくりを行った。可能な講座はオープン講座として、入門コースや基礎コースの希望者も参加可とし、コースを越えての学びと交流を促した。 	<p>た。大学生からシニアまで所属や関心も多様で、受講生の満足度は高く、地域づくり人材の確保につながったと確信できる。一方で、定数に満たない状況での実施が続いており、人材の掘り起こしが課題となっている。</p> <p>事業を受託実施して3年度が経過、修了者数は、2020年度76名(千葉市社協が受託実施)、2021年度68名、2022年度68名、2023年度67名、合計279名となり、修了者フォローもテーマになっている。</p>
--	---

③講師派遣

実績	成果・課題
<p>NPOと行政との協働や団体のマネジメント、市民の地域づくり活動への参加等についての講座の企画、講師を派遣</p> <ul style="list-style-type: none"> ・千葉市緑区、千葉市花見川区、千葉市中央区地域活性化支援事業助成対象団体研修(各1回) ・コミュニティカレッジ佐倉1年、2年 ・とみさと協働塾4回 ・野田市市民活動支援センター「法人会計基礎講座」2回 	<p>行政との連携・協働のひとつのプログラムとなっている。</p>

3. 被災地・被災者支援事業

①福島県県外避難者への相談・交流・説明会事業(福島県県外避難者相談センターちば開設)

実績	成果・課題
<p>電話・対面相談を実施 電話による相談 延べ115件、戸別訪問 延べ98件 来所者1名</p>	<p>主に同じ方からの相談が多い。 新規では東京電力の追加賠償についての相談が何件もあった。</p>
<p>茶話会(参加避難者数) ・4月 鎌ヶ谷市(5名) ・7月 成田市(3名)、八千代市(8名) ・10月 成田市(6名)</p>	<p>避難者同士で話す機会が少ないのでとても喜んでくださった。 また、交流の機会を企画してほしいとの声が上がった。</p>
<p>交流会(参加避難者数) ①いけばな体験交流会 鎌ヶ谷市9/4(16名) ②縁 joy 交流会 2023 10/26～10/28 千葉市きぼ一るにて開催(11名) ③いけばな体験交流会 鎌ヶ谷市12/25(27名) ④クラフト作り体験交流会 松戸市2/29(13名)</p>	<p>①③とても好評だったため、2回開催した。先生のデモンストレーションもとても良かった。 ②当事者の参加者は少なかったが市民の方の参加もあったので盛り上がった。写真展では当事者が撮影したものだったこともあり、リアルな現状を伝えることができたことから「大変だったのね」との声が聞こえた。 ④初めての交流企画で不安だったが男性の参加</p>

	<p>者が増えた。楽しかったとの声があがった。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・交流会に参加する人数が増える一方で情報が伝わっていなかった方もいるので今後広報をどのようにしたら良いかが課題。
<p>千葉県内の生活情報や支援情報を掲載した被災者向け情報紙「縁 joy」を作成、被災元自治体の協力を得て、県内に避難している被災者世帯に送付（隔月 2000 部）</p>	<p>掲載内容の充実をはかることが課題</p>
<p>県内自治体との連携・調整 県内 10 市町の自治体に、福島県職員と一緒に訪問（野田市・流山市・浦安市・市川市・印西市・富里市・佐倉市・四街道市・八千代市・鎌ヶ谷市）</p>	<p>情報提供、課題共有等、震災から 13 年経つが、未だ、帰還できない方々がいることを伝えることができた。</p>
<p>県内の支援団体等と情報交換会を 6 月、9 月、12 月、3 月に開催</p>	<p>支援団体間の情報共有ができて、団体間での連携、協力が進み、支援の充実につながった。</p>
<p>そごう千葉での写真展示を 3/5～3/11 開催</p>	<p>広く多くの人たちと東日本大震災のこの記憶と現状を共有できた。</p>

②福島県避難者住宅確保・移転サポート業務

実績	成果・課題
<p>電話相談 6 件（いずれも延べ数）</p>	<p>複合的な課題を抱えた方からの相談や避難元に帰還希望の方からの相談があった。</p>

③CVOAD被災地支援活動

実績	成果・課題
<p>災害支援ネットワークちば（CVOAD）の事務局として、世話人会とともに事業を進めた。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・令和 5 年度 WAM 社会福祉振興助成事業として「『取り残さない支援を目指して』人材の育成とネットワークづくり」事業を実施。「災害支援リーダー育成研修」（7 月～2 月に 7 回の連続講座を開催、21 名受講）と「災害支援ネットワーク構築のための情報交換・研修」を 6 回、いずれも外部講師を依頼し専門性を持った内容で開催した。 ・茂原市を中心とする 9 月の豪雨災害の被災地、被災者支援の活動を事務局として担った。 ・千葉県災害ボランティアセンター連絡会にオブザーバー参加し、災害支援に関わる県内の団体・組織と情報共有した。 	<p>事務局は、2024 年 3 月末で終えることになった。団体として災害支援活動を中心に据えるのは難しく、発災直後の活動や秋田県や石川県といった県外の被災地支援の活動に関わることはほぼできなかった。復旧・復興期を含め NPO クラブとして災害支援活動にどう関わられるのか、関わる必要があるのか、意見交換、共有しながら、今後の活動を進めていきたい。</p>

4. 地域づくりのコーディネート事業

①四街道市みんな地域づくりセンターの運営（地域づくりコーディネーター業務委託事業）

実績	成果・課題
<p>オープン日 219 日、来所者数 2,765 人（他に大きなテーブル 1,200 人、ユニバーサル農業フェスタ 1,300 人） 新着情報 453 件、相談件数延べ 99 件</p>	<p>前年に比べ、来所者数、相談件数などが増えている。前年）オープン日 221 日、来所者数 2,379 人新着情報 379 件、相談件数延べ 89 件</p>
<p>みんな地域づくりセミナー ・4 月登録団体アンケート（提出 22 団体/83 団体中）</p>	<p><コラボ四街道>新規 5 団体が申請</p>

<ul style="list-style-type: none"> ・6/6 市民活動団体交流会 参加 27 人(21 団体) ・6/30 市民活動ボランティア体験説明会(事例よつかいどう学生服リユース)参加 2 人 ＜コラボ四街道申請サポート＞ ・9/16 キックオフ ファンドレイジング講座「思いを伝え、共感と資金を集めよう」講師徳永洋子さん。参加 20 人(14 団体から) ・9/28 コラボ四街道制度を活用しよう(コラボ四街道概要、はじめての企画書を書いてみよう)参加 7 人 ・10/12 企画提案書・申請書の作成ポイント 参加 7 人 ・10/12～10/26 随時相談受付 6 団体 ・1/13PowerPoint を使ってプレゼン資料を作成しよう 4 人 ・1/25 プレゼンをしてみよう 参加 8 人 	<p>し 3 団体が採択された。</p> <p>採択団体：社会福祉法人よつかいどう福祉会、おむすびっこ、よつかいどう不登校支援ネット</p> <ul style="list-style-type: none"> ・講座、市政だより掲載などにより、コラボ四街道申請の相談が増えた。 ・次年度は更に、市と連携してコラボ四街道について年度の早い時期から知らせ、申請団体が早くから取り組めるようサポートしていくことが必要と思われる。
<p>自治会情報交換会(第 23 回)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・7/7 新型コロナウイルス予防への制限が緩和されつつある中で、地域の高齢化や自治会の担い手不足など従来からの課題等を解決につなげる。事例報告 美しが丘スマホ塾 ① 事例報告の感想②若い人が自治会に参加するためには ③自慢大会(成功事例等、私の自治会の自慢) 	<ul style="list-style-type: none"> ・自治会は災害時における地域住民の安全を確保する上で不可欠な存在であるなどの声が出された。自治会と市民活動団体との関係も含めて、新しい視点で自治会情報交換会のあり方についても再考して行きたい。
<p>地域支え合い推進会議に参画し関係機関と協力する</p> <ul style="list-style-type: none"> ・3/8「支え合い 100 人情報交換会その⑤～自分のため誰かのために支え合い活動に参加しませんか?(主催 地域包括支援センター 協力 まごころクリニック、センター) 	<p>参加 169 人(会場 79 人、Zoom 他)</p> <p>(住民 55 人、介護者 20、福祉施設 15、医療 15、企業、4つの大学)参加を支えあいの担い手づくりにどうつなげるか。</p>
<p>アートを活かしたまちづくり みんなでアート 2023 ワークショップ「ふるさとまつりをみんなで彩ろう」</p> <ul style="list-style-type: none"> ・7/8 ワークショップ 参加 38 人 ・7/26 ワークショップ 参加 35 人 (提灯作成合計 117 個) 	<p>小さい子どもを連れた家族や友達との参加が多く、このことを通して地域に親しみを持つきっかけになると思われる。</p>
<p>子ども支援ネットワーク</p> <ul style="list-style-type: none"> ・4/7 子ども支援団体視察 TSUGAno わこども食堂(スタッフ 3 人) ・4/20 子ども支援交流会「地域×こども～何ができる?何がしたい?」参加 8 人 ・7/5 講演「子どもの居場所づくり」TSUGAno わこども食堂・こどもカフェ代表 田中照美さん 参加 25 人 ・12/7 地域食堂・子ども食堂交流会 <p>【参加団体】子ども食堂実施団体 7 団体 検討している団体 3 団体、その他 1。関係機関：地域包括支援センター、市社協、くらしサポートセンターみらい、子育て支援課</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・昨年来の不登校についての講演会や情報交換をとして、親の会 2 団体を核として連携が図られ「よつかいどう不登校支援ネット」が立ち上がった。 ・子ども食堂交流会をきっかけに、新たに 2 団体が子ども食堂するためプレオープンなどの準備を始めた。 ・ケーブルネット 296 取材 ・「ちいき新聞」掲載
<p>みんなで災害支援ネットワーク</p> <ul style="list-style-type: none"> ・LINE オープンチャットで情報交換 (38 人登録) ・5/16 ボランティアセンターとの意見交換 ・6/4 防災士連絡会との意見交換 ・6/12 ひかりが丘西サロン防災講座 参加 20 人 ・9/20, 10/18, 11/15 防災に関するワークショップ(主催：危機管理室)のスタッフ 1 人参加 ・10/20 県市民活動支援組織ネットワーク会議「三者連携」 	<p>三者連携で災害支援ネットワークに求められること</p> <ul style="list-style-type: none"> ・三者が活動を補い合う。災害ボランティアセンターと連携を取りながら活動し、報告は後からでもよい。 ・団体が支援できることのリスト化課題： ・コアメンバー中心にネットワーク

<p>の構築・強化」</p> <p>参加：センター3、政策推進課1、危機管理室1が意見交換</p> <ul style="list-style-type: none"> ・12/1 災害時の三者連携のための打合せ 参加：危機管理室、社会福祉課、政策推進課2、センター3 ・12/5 災害ネットワーク交流会①「令和5年台風13号の被害状況と支援の取組み」「市民団体のネットワークができること」講師 災害支援ネットワークちば(CVOAD)事務局長 鍋嶋洋子さん 参加8人 ・2/3 災害支援ネットワーク交流会②「能登半島地震発生から団体として何が必要だと思ったか」など。 ・終了後 コアメンバー会議 参加8人 ・3/14 災害時における四街道市での三者連携のための打合せ 出席：危機管理室1、社会福祉課1、政策推進課2、ボランティアセンター1、センター3、コアメンバー4 ・3/14 コアメンバー会議ネットワークのあり方、次年度企画 	<p>の運営ができることを目指す(事務局:センター)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・このネットワークが何をやる組織か、災害が起きた時に動かせるようにするにはどうしたらよいか意見をまとめる。 <p>【コアメンバー】</p> <p>日本ペット飼育協会(2)、朗読者の会やまびこ、食を通して四街道を元気にする会、国際交流協会、和良比小避難所運営委員会、ガールスカウト千葉若葉台62団、岩渕薬品(株)(株)ダイナム、里kara</p>
<p>地域の多様な主体が参加しつながりや連携を進める</p> <p>○福祉施設紹介・販売フェア「大きなテーブル」(第22回)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・6/17 参加者1200人、売上813,670円、出展24団体(福祉15、協賛9) ボランティア21人 <p>主催 実行委(事務局 センター)</p> <p>共催 四街道市地域振興財団 後援 四街道市</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・市民と地域の福祉団体、団体同士の交流が進み様々なつながりができた。 ・ボランティアが活動の力になった。学生もボランティア参加により積極性が出たの声があった(大学教師より)
<p>○ちばユニバーサル農業フェスタ2023in四街道</p> <ul style="list-style-type: none"> ・9/18 来場者数1300人、売上944,900円 新規就農相談3件 その他5件 出展26団体、ボランティア8人 <p>主催 実行委(事務局 地域創造ネットワークちば)</p> <p>後援 四街道市 新規就農相談受付(産業振興課)、農福連携の紹介、フードドライブBOX設置なども実施。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・農業者、地産地消を進めるNPO・事業者、福祉施設などが出展し、来場者との交流、団体同士の交流や連携につながる場となった。
<ul style="list-style-type: none"> ・情報誌「みんなで」年3回(7月36号自分たちで進める地域づくり5000部、11月37号活動を継続するということ4500部、3月38号災害から命を守る地域の力5200部) ・ホームページリニューアル 3月 ・ブログ年間27件、Facebook いいね900(昨年868)フォロワー1088(昨年1028)、投稿208件/年、Instagramフォロワー192(昨年147) ・メール 災害支援ネットワーク、講座呼び掛けに活用 ・団体情報83団体 ・カレンダープロジェクト te-ma:いちおし ・12/5~11 そごう千葉店「みんなで地域づくり写真展」 ・八(はち)フェス(市内の地域イベント)に出展し、センターを紹介する企画 	<ul style="list-style-type: none"> ・Facebookは、Instagramとも連動し活用。ホームページリニューアルによりスタッフが更新する。中身を充実し活用を図る。 ・次年度「みんなで」は、センター発行は3月1回で、市政だより掲載2回、コラボ四街道事業とセンターを広く市民に知らせる。
<p>○大学・高校、関係機関等との連携・協力</p> <ul style="list-style-type: none"> ・愛国学園大学 廃棄物対策課のフードロス削減メニュー協力、福祉に関心を持つ学生の体験先等をコーディネートセンターから大きなテーブルボランティア参加募集 	<ul style="list-style-type: none"> ・支えあい(100人情報交換会、オレンジカフェについての相談)は、地域包括支援センター、くらしサポートセンターみらい、子ども食堂(ボ

<ul style="list-style-type: none"> ・淑徳大学 市のセンター見学 7/28(学生 18 教員 2) ・千葉敬愛高校生徒会の依頼により、赤い羽根募金箱を設置 <p>○関係機関との連携・協力、視察等</p> <ul style="list-style-type: none"> ・富里市より研修 6/2, 7/1「コーディネーターの役割、若い世代への PR 方法、情報誌の作成の流れなどについて」 ・市民大学講座へセンター紹介（「みんなで」チラシ配布） ・下志津病院 地域医療連携室 木村聡子さんとの連携について情報交換 11/30 ・韓国オヌル共同体(高齢者支援に関わる団体 6 人+(社福)生活クラブ 1 人)センター見学 受入れ (7 人) 12/14 <p>センターのコーディネート事業と地域とのつながりについて</p>	<p>ランティアや、食材の提供)などについて、ボランティアセンターやみらいなどと連携し協力を得て事業を進めた。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・大学・高校との連携について、特に愛国大学とは、大学ゼミや、センターの講座やボランティアへの参加、相談など様々な場面でやり取りがあった。 <p>今後も、地域づくりに若い世代との連携を検討していきたい。</p>
---	--

②多世代交流拠点「おおなみこなみ」運営事業

実績	成果・課題
<p>開設から 10 年が経過、5 名のボランティアスタッフとともに運営を継続、地域の居場所となっている。</p>	<p>「なくなったら困るから」といった声が多く聞かれるようになり、地域の高齢者の暮らしの支えになっていることが実感できる。一方で子どもの来所が減ってきている。</p>
<ul style="list-style-type: none"> ・健康貯筋体操、アイチ体操、おとなのための英会話講座を継続開催。 ・「編み物サークル」「折り紙講座」等、主体的に活動するグループが増えた。 ・「青空市」を開催（7 月、3 月）。生活クラブ虹の街から「子ども食堂」運営のための助成金 4 万円の助成を充当。 ・JFSA との協働で「リサイクル衣料品の回収と販売」を 8 月と 3 月に実施した。 ・県内の 5 福祉事業所の協力を得て、物品の受託販売を実施した。 ・「ロボットプログラミング」講座の会場等、スペース貸しにより運営費の確保ができた。 	<p>ボランティア講師の力が大きい。</p> <p>開催形態を工夫しながら、交流・支援の場を設定できた。</p> <p>運営費に充当するとともに、物品の販売を通して、それぞれの事業のアピールができた。</p>

③生活クラブ安心システム地域づくり（コミュニティデザイン）事業

実績	成果・課題
<ul style="list-style-type: none"> ・さくら安心システム推進会議（5 回）にオブザーバー参加して、取り組む課題を共有し、コミュニティデザイン事業の活動を報告した。 	<p>事業進捗を共有したことで、職員イベント参加の協力を得られた。</p>
<ul style="list-style-type: none"> ・風の村さくらがある佐倉市内郷地区で機関、組織、地域のキーマンにヒアリング（健康体操クラブ@山崎公会堂）、地区社協の浅野さんの協力で地域情報を共有した。 ・さくら冒険基地の協力で、地域に呼びかけ竹林整備活動 3 回（25 名）、竹灯籠づくり（19 名）、門松づくり（23 名）、たけのこ堀り（11 名）のイベントを開催した。 ・竹灯籠づくりに参加した親子からの発案で、地域食堂を 4 月、7 月、9 月に開催し賑わった。 	<p>地域交流スペースベルダを活用して居場所開設を目指したが、風の村、安心システム推進会議の方針変更、場所の提供ではなく地域に出ていくことになったと聞いている。</p>

④SAVEJAPAN プロジェクト事業

実績	成果・課題
<p>損保ジャパン、日本 NPO センター、全国の環境保全団体、中間支援団体が協働で「みんなで守ろう！日本の希少生物種と自然環境」を目的に実施。NPO 法人ちば環境情報センターと協働して「千葉市内に残された谷津田の命の脈わいとつながり」をテーマに 2 年目実施。NPO クラブは広報支援、専用サイトでの情報発信を担った。（期間：2022/9 月～2023/8 月）</p> <ul style="list-style-type: none"> ・他に谷津田の観察会を毎月実施、外来生物（アライグマ、イノシシ、ウシガエル等）チェックと駆除を実施。 	<p>成果・課題</p> <ul style="list-style-type: none"> ・谷津田の観察会など野外活動も停滞するなか、感染対策を徹底したうえで継続開催し、若い子育て世代の参加者が増えている。 ・活動場所である下大和田地域で開発計画の環境影響評価が終了、谷津田の使用制限が懸念される。

⑤プロボノ事業

実績	成果・課題
<ul style="list-style-type: none"> ・ちばプロボノ作戦会議を実施 4/9 幕張公民館 ちばプロボノワーカー経験者による今期のプロボノ事業実施への意見出しを行った（参加 15 名） ・ちばふるさとプロボノ <p>農林水産省の助成金を活用した NPO 法人サービスグラントの全国事業に連携する形で、千葉県のコディネーター団体として実施。プロボノマッチングサイト「GRANT」を活用しながら個人のボランティア希望者を県内の公益活動を行う団体、事業者につなぎ、伴走した。</p> <p>御宿町、南房総市の 3 団体 7 プロジェクトを実施。うち、3 プロジェクトでは農林水産業体験を含めて 2 泊 3 日現地滞在し、地域での理解、交流を深めた</p>	<p>成果・課題</p> <ul style="list-style-type: none"> ・プロボノワーカー経験者や関心のある人の参加があり、その後、ふるさとプロボノの運営サポートとして 3 名の協力を得られた。 ・完了後アンケートの結果も良く、県内山間部の公益活動の運営基盤強化と地域外との交流の促しの両面で、プロボノは有効だと感じた。県内山間部の高齢化などの課題を肌で感じる貴重な機会となった

⑥全国ボランティア推進団体会議「民ボラ」開催について

実績	成果・課題
<p>全国ボランティア推進団体会議「民ボラ in 山梨」のテーマは「大丈夫か日本！？～平和と公共を築く市民活動」7/22、23 に対面、オンライン（Zoom）併用で開催。全国の中間支援組織とともに、企画、運営を担った。</p>	<p>成果・課題</p> <p>全国の中間支援組織メンバーとの連携が企画の運営・実施を通して深められ、社会状況の変化と対応する活動内容についての共有が進んだ。</p>

⑦八街市協働のまちづくりコーディネーター育成事業

<p>1. コーディネーター会議</p> <ul style="list-style-type: none"> ・4.5 月はコーディネーター研修、視察等、6 月に PiT を開所し週 1 回、火・木交互にコーディネーター会議（51 回）を開催し事業企画、調整、進捗管理を担当課と共に実施した。 ・ニュースレターを発行：3,000 部（区長回覧、関係機関、団体） ・テーマ：No.1「これからの協働のまちづくり」No.2「さまざまな系を編むコミュニティづくりー区・自治会活動の活性化にむけて」No.3「みんなで関わる農業」 	<ul style="list-style-type: none"> ・コーディネーター 5 名が採用され、ともに研修、実践してきたが 1 名退職、新規スタッフ募集中。 ・PiT 立上げ期、団体情報、地域資源等の情報収集をさらにすすめる必要がある。 ・市の市民活動補助金制度がなく、他助成金へのエントリー、資金調達を進めている。
--	---

<ul style="list-style-type: none"> ・「制服リユースのしくみづくり」を提案、チーム会議（4団体参加）視察を通して、市関係機関の協力で活動が始まった。 2. ネットワーキング <ul style="list-style-type: none"> ・まちづくり団体情報交流会「八街のいいねを語ろう会」開催 <p>10/21 八街市中央公民館大会議室 参加者：51名、市長挨拶</p> <p>①事例発表</p> <ul style="list-style-type: none"> ・みどり台区長大塚実季雄さん「盆踊りに代わる親子三代ふれあい広場」について ・泉台区長 田中達夫さん 「泉台みまもり隊」について ・希望ヶ丘区長 中原美樹さん、自治会長 三ノ輪文雄さん 「希望（のぞみ）の会」について <p>②グループでの語り合い</p> <p>3. 人材育成：2/4(日)協働のまちづくりセミナー 「子どもの居場所をつくろう」講師：高橋亮さん(松戸市)57名参加</p> <p>市内事例報告：満腹食堂(大塩さん)、「ナッツアップ？」中高生の居場所(大田槇子さん)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・地域力向上スクール連続3回講座 2/17, 3/9, 3/23 24名参加 <p>①講演「企画書づくりのコツと助成金申請のポイント」</p> <p>②「想いをカタチにシート」記載、発表、アドバイス</p> <p>③助成金申請書の記載、発表、アドバイス</p>	
---	--

5. 広報事業

実績	成果・課題
<p><紙媒体による情報発信></p> <ul style="list-style-type: none"> ・ニュースレター「つぎの一步くん」78～81号を各800～900部発行。会員、県内外の市民活動センター・中間支援団体等に配布、配架依頼。対面で配布できる機会が昨年よりも増え、発行枚数も増やした。 ・団体リーフレットをリニューアル発行（1000部）県内の市民活動支援センター、ボランティアセンターに配架依頼。 ・「市民活動マッチングカタログ2023」（千葉市市民活動支援センター発行）に団体紹介を掲載。 ・千葉市市政だより、生活クラブ情報紙「コルザ」、自治会回覧などで情報発信 	<ul style="list-style-type: none"> ・多様なステークホルダーの連携の手法を使ったNPOの新しいマネジメント、担い手の育成などをテーマとして取り上げ、活動事例と共に伝えた。 ・会員加入者に向けた内容を意識してリーフレット紙面を作成し、団体の認知の場面等で活用している。
<p><メールによる情報発信></p> <ul style="list-style-type: none"> ・メールマガジン「通信・一步くん」No.464～479を会員、講座受講者などに適時配信。（年間16回配信、登録者数は634名） ・メールマガジン登録外の県内の約220団体にメールで講座案内などを行う。船橋市、千葉市の関連機関に広報協力を依頼するなど、講座や大学校の受講対象団体の掘り起こしを行った。 	<ul style="list-style-type: none"> ・講座の案内、補助金の活用等、他団体の情報等も含め広く情報収集し、情報提供した。メルマガ登録者数は、講座受講者など毎年増えている。 ・対面講座受講者は集めづらくなっているが、実施する市との連携によりメールでの広報効果は一定出ている。

<p><ホームページ、ブログ、SNSによる情報発信></p> <ul style="list-style-type: none"> ・団体ホームページ、団体ブログ「NPOクラブの愉快的仲間たち」「縁joy東北～エンジョイ東北」、団体のFacebook ページ（フォロワー550）、X 旧 Twitter（フォロワー564）で団体情報を適時更新。 ・ちばし地域づくり大学校、SAVE JAPAN プロジェクトのホームページ、おおなみこなみ Facebook ページで各事業の情報を発信。 	<ul style="list-style-type: none"> ・各事業ページでの更新と、団体ページや SNS と連動し、適時、情報発信を行ったが、確実な受講者や会員確保のためにはさらに検討が必要。
<p><その他の情報発信></p> <ul style="list-style-type: none"> ・千葉日報社の千葉の情報ポータルサイト「ちばとぴ！チャンネル」で「CHIBAKARA～ちばからチャンネル」（フォロワー 3879）を適時更新。 ・生活クラブのグループ学習会、虹色フェスタで周知を促す <p><メディア掲載></p> <ul style="list-style-type: none"> ・ちばし地域づくり大学校の紹介記事掲載 <p>7月号紙面掲載：地域新聞（紙面：7/14, 21 の千葉市を含む5地域版のほかサイト掲載も）</p> <p>コミュニティ FM ラジオ、ケーブルテレビで大学校の紹介も</p> <ul style="list-style-type: none"> ・そごうギャラリー写真展「忘れない東日本大震災～あれから 13 年」の紹介記事が千葉日報のネットニュースに掲載。チバテレ、Yahoo、docomo、goo、oricon などの千葉のニュースとして二次配信あり。 	<ul style="list-style-type: none"> ・投稿記事が 2 次配信で地域のネットニュースに掲載されるなど、「CHIBAKARA～ちばからチャンネル」はフォロワー数を伸ばしている。大学校の受講につながるなど、地域活動の裾野を広げることに一定つながっていると思われる。

6. 他団体との連携・協力事業

①NPO法人地域創造ネットワークちばの事務局業務

実績	成果・課題
<ul style="list-style-type: none"> ・「第 13 回ちばユニバーサル農業フェスタ」を、四街道市文化センター前広場にて開催。実行委員会事務局を担当、会員団体は協賛金、物品提供した。 <p>出展：26 団体/24 ブース（四街道近隣の農業、福祉事業者）、四街道市 4 機関、来場者 1,300 名、売上 944,900 円。ちば県民活動PR賛同行事、ちば 150 周年記念事業パートナー登録し、記念グッズを活用した。</p>	<p>四街道市産業振興課が出展、新規就農相談受付や農業の情報の提供、農福連携の紹介ができた。</p>
<ul style="list-style-type: none"> ・第 5 回つながる経済フォーラム 11/24、千葉県中小企業家同友会経営研究集会第 3 分科会と連携開催した。 <p>テーマは「多様な人材活用 人手不足をどう乗り切るか？次の時代の職場の姿」</p> <p>会場：TKP 東京ベイ幕張ホール 参加者：120 名</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・働きづらい方々の現状や職場の受入れ体制、業務分解の実践報告後、困窮者相談対応する組織、事業者の SNS グループ開設、参加が広がり実績につながっている。

②その他の組織、団体との連携

実績	成果と課題
<p>公益財団法人ちばのWA地域づくり基金の役員として活動した。業務決裁、理事ミーティング、定例理事会、報告会等、助成審査会等に携わった。「子どもの今と未来を支える基金」「事業指定プログラム」「休眠預金等活</p>	<p>寄付募集が計画に及ばず、今後も課題となっている。</p>

<p>用助成事業」、日本財団「子ども第3の居場所」事業等を通して、コミュニティ財団としての機能、役割が拡充できた。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・「経済的困難を抱える家庭の子どもたちの体験格差を解消するために」クラウドファンディングの取組みをメールマガジン、案内チラシ配布など広報協力した。 	
<p>生活クラブ千葉グループ協議会、年4回開催される運営協議会に出席、「生活クラブ安心システム」「街の縁側」「子ども安心システム」に協力した。また、ちば社会連帯経済研究所が実施する講演会、機関紙発行に協力した。</p>	<p>グループ内の活動に留まりがちであり、地域社会に向けた情報発信が継続した課題である。</p>
<p>千葉県市民活動支援組織ネットワーク会議に参加、県内の支援組織、市行政担当課と意見交換、情報交換をした。研修会にも参加した。</p>	
<p>千葉県社会福祉協議会、県内自治体等設置の委員会や審査会に参画した。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・千葉県社会福祉協議会政策調整委員会（牧野） ・千葉県地域ぐるみ福祉基金運営委員会（牧野） ・千葉県県民活動推進懇談会（牧野） ・千葉市緑区補助金審査アドバイザー（鍋嶋） ・印西市まちづくりファンド選考委員会（鍋嶋） ・松戸市協働のまちづくり協議会（牧野） ・習志野市協働推進委員会（鍋嶋） ・大網白里市住民協働事業審査会（勝又） ・市原市市民活動・協働推進委員会（牧野） ・富里市協働推進委員会（牧野） ・浦安市まちづくり活動プラザ評価委員会（鍋嶋） ・千葉県生涯大学校指定管理審査会（鍋嶋） 	
<ul style="list-style-type: none"> ・NPO 法人千葉県障害者就労事業振興センター監事（勝又） ・NPO 法人ほっとハート監事（鍋嶋） ・生活クラブ生協千葉監事（鍋嶋） ・公益財団法人ちばのWA地域づくり基金理事長（牧野） 	

II. 事業の実施に関する事項

事業名	事業内容	実施日時	実施場所	従事者の人数	受益対象者の範囲及び人数
市民活動・市民事業に関する情報収集及び提供事業	【広報事業】				
	・ニュースレター「つぎの一步くん」の発行	年4回	当事務所	2名	会員123名 他多数
	・メールマガジン「通信・一步くん」の配信	毎月2回	当事務所	1名	市民一般、市民活動・市民事業を行う団体 会員123名および配信希望者500名
	・団体ホームページ、ブログ、Facebook等での情報発信	随時	当事務所	2名	市民一般、市民活動・市民事業を行う団体
市民活動・市民事業に関する講座事業	【講座事業】				
	・千葉県市民活動団体マネジメント事業	10月～2月	千葉市船橋市	6名	市民一般、市民活動・市民事業を行う団体 延べ181名の参加
	・ちばし地域づくり大学校	9月～2月	千葉市	6名	千葉市および近隣市在住の市民一般77名
被災地・被災者支援事業	【福島県避難者支援事業】	通年	千葉県内	3名	避難者1,395名
	【CVOAD被災地支援活動】	通年	千葉県内	1名	県内支援団体8団体 災害支援組織、市民一般

市民活動・市民事業を行う団体の運営又は活動に関する連絡、助言または援助事業	【相談事業】 ・事務所での相談対応	通年	当事務所	6名	市民活動・市民事業を行う団体、市民一般 相談件数 24件
	・四街道市みんなで地域づくりセンターでの相談	通年	四街道市	8名	市民活動・市民事業を行う団体、市民一般 相談件数 99件
	【四街道市みんなで地域づくりセンターの運営】	通年	四街道市	9名	市民活動・市民事業を行う団体、市民一般 入館者総数 2,765名
	【多世代交流拠点おおなみなみの運営】	通年	千葉市内	6名	市民一般、利用者総数約 900名
	【SAVEJAPAN プロジェクト事業】	4月～8月	千葉県内	2名	市民一般、市民活動・市民事業を行う団体 1団体、40名
	【プロボノ事業】	通年	千葉県内	2名	市民活動・市民事業を行う 3 団体、プロボノ ワーカー18名
	【NPO 法人地域創造ネットワークちばの事務局業務】	通年	千葉県内	3名	市民一般、市民活動・市民事業を行う団体 「ユニバーサル農業フェスタ」来場約 1,300名
【八街市協働のまちづくりコーディネーター育成事業】	通年	八街市	1名	コーディネーター5名、市民一般 200名	
【自治体、他団体との連携・協力業務】 委員会等にNPOの立場に関わるとともに、講座等の講師を担った。					・千葉県、四街道市、千葉市、大網白里市、 松戸市、印西市、習志野市、市原市 ・千葉県社会福祉協議会 ・中間支援組織 ・中央ろうきん